

# ICU入室オリエンテーションDVDを使用した術前訪問の取り組み

～ICU入室オリエンテーションの標準化への試み～

キーワード：DVD、オリエンテーション、標準化

C棟3階 ○石阪 奈緒、西原 無我、北乾 徳子、露口 美弥子、宋 友榮

## I. はじめに

手術後、集中治療部(以下ICUとする)へ入室する患者とその家族は、日常生活からは想像できない環境におかれる。術前訪問は、患者、家族にとって術後の合併症予防や術後に対する理解を深め、不安を軽減させる目的で行う。当ICUでは術後入室する患者、家族全てに術前訪問を実施している。平成21年度C棟3階トピックス委員会は、入室する全ての患者、家族に必要な情報を織り込んだICU入室オリエンテーションDVDを作成し、現在、家族控え室で上映している。今年度より術後ICUに予定入室される患者、家族に対してDVDを使用し、ICU看護師による術前訪問の標準化への試みを行ったので報告する。

## II. 目的

術前訪問にDVDを活用できたか、ICUスタッフの意識、業務にどのような影響があったかを調査する。

## III. 方法

調査期間：2010年11月8日～11月15日

対象：ICU看護師40名

調査方法：無記名自記式アンケート

アンケート内容：1) ①術前訪問でDVDを使用した回数、使用したことがない看護師の理由 ②1回の術前訪問に要する時間 2) DVD内容において各項目の説明におけるDVDの活用度 3) DVDを取り入れることによる術前訪問の時間の変化

4) DVDを効果的に使用できた方法 5) DVD使用前との説明内容の変化 6) DVDを取り入れたことによる良かった点 7) 困った点 8) DVD以外の内容で看護師が付け加えて説明した内容 9) 患者、家族からの反応 10) DVD使用による術前訪問の標準化

DVD：平成15年度に改訂されたICU入室オリエンテーション用紙の内容をもとに構成されており、写真や文章、イラストが挿入されている。クラシック調の音楽とICU看護師によるナレーションが加わっており、所要時間は5分間である。術後の情報については含まれていない。

術前訪問：訪問当日に、患者のスケジュールと家族の面会時間を考慮し、事前に時間を決定した上で、ICU看護師が入院病棟へ訪問する。まず、病室でDVDを上映した後、ICU入室オリエンテーション用紙とパンフレットを用いた上で患者の反応を見ながら説明する。DVDの内容には含まれない術後の呼吸訓練や食事に関しては、用紙と写真を用いて補足説明する。

倫理的配慮：調査用紙配布時、目的や内容の説明を正しく書面で行った。参加は自由意思で、回答は無記名であること、収集したデータは調査以外の目的で使用せず、終了後、速やかにデータ消去・破棄することを伝えた。また、所属施設の看護研究倫理委員会に承諾を得た。

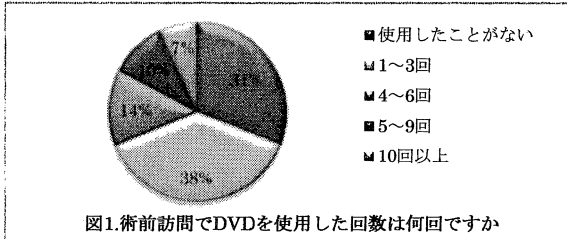
## IV. 結果

対象：40名中、29名。

回答率：72.5%。

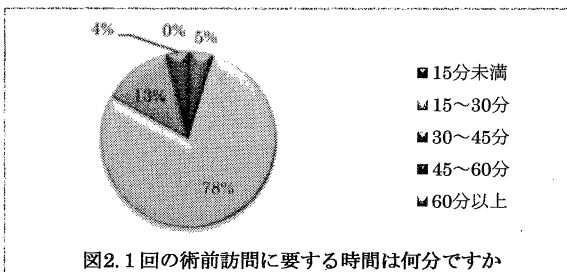
アンケート調査結果：アンケート回収した 29 名のうち術前訪問にて DVD を使用したことがあるのは 20 名であり、68%であった。

1) ①術前訪問において DVD を使用した回数は、図 1 の結果となった。

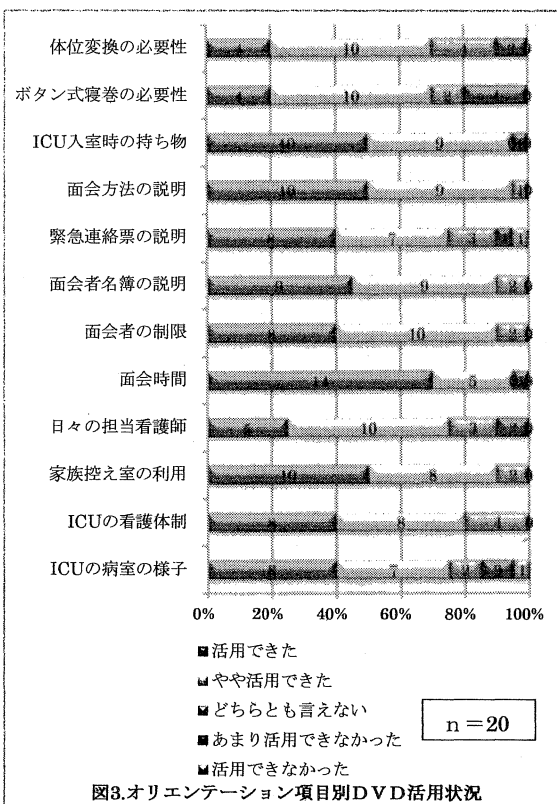


DVD を使用したことがない理由は、「フリー業務に当たらない」が 5 名、「術前訪問に行ったことがない」が 3 名であった。

② 1 回の術前訪問に要する時間については、図 2 の結果となった。



2) オリエンテーション内容における項目別の DVD 活用度については、図 3 の結果となった。



3) 術前訪問に要する時間の変化の有無は、有が 6 名、無が 14 名であり、無記入が 9 名であった。変化の内容については、「延長した」が 5 名、そのうち 15~20 分延長したが 1 名、20~30 分延長したが 1 名、その他が 3 名であった。

4) 患者へ効果的に説明するための DVD の使用方法については、「DVD を見てもらった後に説明」が 7 名、「DVD の絵を見ながら説明」が 2 名、「DVD を見てもらった後、用紙・写真を用いて再度確認」が 2 名、「DVD の一時停止、質問時の巻き戻し」が 1 名であった。

5) DVD 使用前との説明内容の変化については、有が 11 名、無が 9 名、無記入が 9 名であり、「家族に対して面会方法の説明がしやすくなった」が 3 名、「持ち物の説明をするようになった」が 1 名、「緊急連絡票の説明をするようになった」が 1 名であった。

6) 術前訪問に DVD を取り入れて良かった点は、「統一した内容で実施できる」が 5 名、「言い忘れない」が 3 名、「実際の映像を見てもらうことでイメージできてもらいやすかった」が 3 名、「面会方法、持ち物について視覚的に見るためわかりやすい」が 3 名、「家族に対する説明がしやすい」が 2 名であった。

7) 術前訪問に DVD を取り入れて困った点は、有が 5 名、無が 13 名であった。有の内容は、「DVD の内容に家族の面会についてが多く、患者の状態にあまり触れられていない」、「術前訪問に時間がかかる」、「患者のみのオリエンテーションでは DVD を見てもあまり理解を得られず、結局最初から用紙で説明することになる」であった。

8) DVD 以外の内容で看護師が付け加えて説明した内容は、「経口挿管施行やトラコバンド装着のこと」、「術後の呼吸リハビリにおいて離床や排痰の援助」「モニターやルート挿入、患者の入室方法」であった。

9) 患者、家族からの反応では、「わかりやすく、イメージしやすい」、「こんなに丁寧に説明してもらったのは初めて」、「こんな DVD があるなん

てすごい」という意見があった。一方、「家族に見てもらった方が効果的だ」、「術後の様子がもっと聞きたい」、「時間が長い」という意見も聞かれた。

10) DVD 使用による術前訪問の標準化は、有が 21 名、無が 2 名、無記入が 6 名であった。無と答えた理由には、「患者、家族の理解度にもよるため統一した説明は難しいと思うが漏れはないと思う」、「DVD を見ているか反応を見た上でわからないことは追加説明する必要がある」であった。

## VI. 考察

### 1) 術前訪問での DVD 使用状況

有効回答のうち、68%の看護師が使用している結果となった。当 ICU では、術前訪問はフリー業務を担当した看護師が実施することになっている。使用していない理由については、フリー業務の担当回数に関連していた。今後は ICU 看護師全員が DVD を使用した上での術前訪問を施行できるように、定期的に DVD の内容や使用方法などを共有していく必要があると考える。

### 2) 術前訪問に要する時間

15～30 分で説明するという意見が 78%であった。DVD を取り入れることで時間が延長するという意見もあったが、1 回の術前訪問に要する時間については、患者の理解度や看護師の技量によっても変化し得ることである。術前訪問において DVD を使用した回数においても 10 回以上使用したことがある看護師は少数であり、DVD を使用した術前訪問の方法にばらつきがあった可能性もある。今後は DVD を使用した術前訪問を施行することで、患者の状況に合わせて適切な時間と理解の得られるオリエンテーションを目指したいと考える。

### 3) DVD 使用前との説明内容の変化

DVD は当初、緊急で ICU 入室となった患者家族を対象に作成したため、緊急連絡票や面会方法、持ち物の説明が内容に含まれている。手術

から帰室後の面会では、緊急連絡票の再確認を家族に行っている。術後経過の中で状態の変化により緊急連絡票を使用することがあり得るため、必要性を説明することは重要と考える。また、手術後の予定入室患者の場合、術前訪問で説明した内容以外の物まで ICU へ持参されることが多かった。しかし、持ち物を DVD の中で上映することになってから ICU での療養生活で不要であるものの持ち込みが少なくなった。物品の写真を映像化することで、患者にとって必要な物が明確となり印象づけられたと考える。

### 4) オリエンテーション項目別、DVD 活用度

全ての項目において「活用できた」、「ほぼ活用できた」の項目で過半数を超えており、DVD の内容すべてが術前訪問で活用できる内容であったといえる。DVD は ICU へ入室する全ての患者、家族に必要な情報を織り込んでおり、その全ての内容が、術前訪問で活用できるものであった。DVD を使用することによって、看護師が伝え忘れなく実施できること、説明がしやすくなったと意見があった。藤井らは「視覚的教材を用いて術前オリエンテーションを行うことで、より患者の術前訓練に対する理解を深め、スタッフの力量に関係なく指導内容を統一できる」<sup>1)</sup>と述べている。術前訪問に DVD を導入することは、全ての患者に統一したオリエンテーションを施行することに有効であったと考える。

### 5) 術前訪問への DVD 導入で良かった点

DVD 作成の目的でもあった、統一した内容を患者、家族に伝達することや言い忘れがないこと、視覚的、聴覚的な刺激から患者がイメージしやすいとの意見があった。岩永は「現代人は、情報をテレビやインターネットから得ることも多く、視聴覚に訴えた DVD は違和感なく受け入れられる」<sup>2)</sup>と述べている。オリエンテーション内容を DVD で映像化しておくことで、より患者の理解を深め説明内容を統一できると考える。また、患者、家族からもわかりやすくイメージしやすい、丁寧であると高評価であった。安達

らは「患者は情報を提供され手術に対してある程度のイメージがわくと、手術というストレスに適切に対処できる」<sup>3)</sup>と述べている。DVDによる術前訪問を施行することは、術後のイメージにつながり、患者、家族の不安の軽減につながると考える。

#### 6) 術前訪問への DVD 導入で困った点

状況によっては時間がかかることがあり、今後アンケートから出てきた効果的な使用方法やコミュニケーション技法の視点からも術前訪問に適した時間について検討し看護師に伝達する必要があるといえる。

患者の術後の状態についての内容が少ないことや補足説明にも呼吸訓練や術後経過についての内容が多かったことから、今後、DVD 内容の追加や対象別の DVD の作成も検討する必要があると考える。

## VII. 結論

1) DVD の内容は、術前訪問で活用することができ、患者、家族に統一した内容を伝えることができる手段となる。

2) ICU 看護師がより統一した内容を患者、家族へ伝えるためには、パンフレットやオリエンテーション用紙による補足説明の統一や術前訪問用に DVD 内容の追加、修正を検討する必要がある。

#### 参考文献

1) 藤井真優美他：術前オリエンテーションによる不安の軽減—DVD 作成を通して—日本看護協会論文集、第 40 回成人看護 I、P6—8、2009

2) 岩永鶴子：ベッド転落事故予防対策 DVD によるオリエンテーションの有効性、日本看護学会論文集、第 40 回小児看護、P174—176、2009

3) 安達真弓、他：外来手術患者への手術室看護師による術前オリエンテーションの有効性、第 11 回手術室学会発表収録、P131—134、1997